

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	高齢者生きがい推進事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	高齢者生きがい推進課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	横山 友二			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	65歳以上の市民	意図	高齢者同士の交流の機会を増やし、生きがいを持って健やかな生活を営めるようにするとともに長寿を祝う。
事業内容	老人クラブ連合会の活動を補助することで単位クラブを活性化させ、地域高齢者の加入促進を図る。 88歳、100歳の市民に祝金を支給し、長寿を祝福する。 毎月12日、22日に70歳以上の市民に無料で銭湯（江戸川台：江戸川湯・南柏：南力湯）に入浴していただくことで高齢者間の交流と健康増進を図る。			
事業開始から現在までの状況変化	老人クラブ連合会に対する活動支援を継続して実施していく。 敬老祝金の贈呈は、昭和33年からの敬老年金を改め実施してきた。平均寿命の延びに伴い平成22年度からは77歳支給を廃止した。平成27年度からは支給対象を88歳及び100歳とした。平成23年度から70歳以上の市民を対象にシルバーコミュニティ銭湯事業を開始した。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	老人クラブ数		73	70	68	団体	
老人クラブ会員数		3,308	3,169	3,045	人		
敬老祝金支給者数		634	633	624	人		
シルバーコミュニティ銭湯利用者数		3,088	3,025	2,928	人		
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 老人クラブ数、会員数は減少傾向にある。 敬老祝金は、増加傾向にある。 シルバーコミュニティ銭湯利用者数は、やや減少傾向である。
事務事業のコスト		平成26年度	平成27年度	平成28年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		29,790,925	29,157,105	20,937,162			
事業費(b)(円)		26,335,925	25,392,105	17,504,662			
うち一般財源		26,335,925	25,392,105	17,504,662			
職員給与費(c)(円)		3,455,000	3,765,000	3,432,500			
人役・職員(人)		0.50	0.50	0.50			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	継続（事業を現状どおり継続すべき）					
					コストの削減	A 削減の余地はない

事務事業の業務改善について

今年度(H28)の改善計画	老人クラブ役員による入会の勧奨について事務局と調整を進める。ゆうゆう大学卒業式の出入り口ホールにおいて、老人クラブの紹介ブースを設置し勧誘する。	取組の課題	老人クラブ数、会員数は減少傾向にある。また、単位老人クラブの会員数に差が生じてきている。会員数を増やす手段の検討が必要である。
今年度(H28)に実施した取組	老人クラブ連合会と勧誘の方法について検討し、実施したが加入率の増加には繋がらなかった。また、敬老事業として、敬老祝金の支給やコミュニティ銭湯事業を実施した。	今後の改善計画	規約の改正等を含め検討し、引き続き老人クラブ役員による入会の勧誘について事務局と調整していく。